延喜式内名神大社

生島足島神社便り

Vol.50

ごあいさつ …… 2
ごあいさつ／氏子定期総会 …… 3
平成31年度事業計画／神社年間行事予定 …… 4
新任総代・担当紹介 …… 6
手水の作法／神社のちょうすけくん／ちょうくんの華麗なる一日 …… 7
おむすび／卜事／お知らせ／編集後記 …… 8

QR コード
携帯電話、スマホにて簡単に
ホームページにアクセスできます。

第50号　平成31年4月　生島足島神社　上田市下之郷中池西701　TEL 0268(38)2755　FAX 0268(39)1515
公式ホームページURL　http://ikushimatarushima.jp/

新年度に向けて

ごあいさつ

宮司　宮川清彦

氏子、崇敬者の皆様には、常日頃よりご助勢をいただき厚くお礼を申し上げます。特に戦後の混乱さめやらぬ頃には自治会が中心となり、また近年は総代の方々の一方ならぬ尽力により、お宮が栄えておりますことに衷心より感謝を申し上げます。昭和・平成と、時を刻んで来ております戦後の日本は、新たな元号「令和（れいわ）」の新時代を迎えようとしています。

お正月のうたに「年の始めの例（ためし）とて　終（おわり）なき世のめでたさを　松竹（まつたけ）たてて門ごとに　祝（いお）う今日こそ楽しけれ」があります。変化・変革の時代が締めくくられ、新たな御代に踏み出そうとする瞬間に立ち会う私たち。お日様の輝きもさらに増すようで、わき立つ思いに終わりなき御代のめでたさと、皇室のありがたさを思わずにはおられません。「こころ」豊かに暮らせる時代となるよう祈りたいと思います。

御祭神としてお護りする「生島大神」「足島大神」は国土の守り神として宮中にお祭りされています。その昔、御代替（みよが）わりには国土の安泰（あんたい）を願うため、二柱の神様に祈りをささげたといいます。当神社では、四月二十九日に「天皇陛下御譲位御安泰（てんのうへいかごじょういごあんたい）」のお祭りを斎行し、順次御代替わりにともなう臨時のお祭りを執り行ってまいります。

さて、譲位を受けられた皇太子殿下は天皇の位を受け継がれるため、二つの大きな儀式と一度きりしかないお祭りを行われます。

① 皇位の証（あかし）である三種の神器（さんしゅのじんき）を受け継ぐ「剣璽等承継の儀（けんじとうしょうけいのぎ）」

② 即位した事を内外に示す即位式、「即位礼正殿の儀（そくいれいせいでんのぎ）」

③ 即位した天皇が、即位後初めて五穀豊穣を神に感謝する「大嘗祭（だいじょうさい）」です。

改元

五月一日は新元号に変わり、御即位の日として祝日になります。この日、皇位と共にある三種の神器（じんぎ）のうちの「天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）…草薙剣（くさなぎのつるぎ）ともいう」・「八尺瓊勾玉（やさかにのまがたま）」を受け継ぐ「剣璽等承継の儀（けんじとうしょうけいのぎ）」が行われます。あと一つの神器である八咫鏡（やたのかがみ）は皇居にある宮中三殿の賢所（かしこどころ）に御神体として祀（まつ）られているため、動かすことはしません。後刻、皇祖 天照大御神（こうそ あまてらすおおみかみ）をお祀りする伊勢の神宮（御神体は八咫鏡）に、剣璽（けんじ…剣と勾玉）を携（たずさ）えて御親謁（ごしんえつ…ごさんぱい）されます。

剣璽等承継の儀の後、即位した事を内外に示す行事・儀式が今秋に行われます。その中で最も重い儀式が「即位礼正殿の儀（そくいれいせいでんのぎ）」です。このたびは十月二十二日と定められており、祝日となります。これは宮中の松の間で行われ、即位を内外に宣明（せんめい…宣言）するものです。前例通りならば、天皇は黄櫨染御袍（こうろぜんのごほう）、皇后は五衣（いつつぎぬ）・唐衣（からぎぬ）・裳（も）という姿で、それぞれ高御座（たかみくら）・御帳台（みちょうだい）に立たれます。天皇は「お言葉」を読み上げられ、国民を代表して内閣総理大臣が寿詞（よごと…お祝いの言葉）を述べられます。そのの ち万歳三唱（ばんざいさんしょう）を行い、パレードにつづきます。平成の折には、国内外の参列者約二千二百人が見守りました。

五月一日、十月二十二日には国旗を揚げてお祝いしましょう。

次号へつづく

「即位の礼」で使われる調度品「高御座」（手前）と「御帳台」　産経新聞より

新総代長あいさつ

氏子総代長
松澤繁樹

早春の頃、氏子崇敬者の皆様方におかれましては神社の御神徳、高揚の為に常に温かい御支援、ご協力を賜り心より敬意と感謝を申し上げます。

さて先の総代選挙におきまして氏子総代長に選出されました六班の松澤繁樹です。

当神社は、長野県では最も古い由緒のある神社の一つであり諏訪大社に次ぐ格式を持つ信濃の二宮といわれています。誇りと責任を持ち総代・神職・職員一丸となり生島足島神社発展、安泰のため、そして訪れる方々が何度も来て頂ける神社となるよう全力で取り組んでいく所存です。氏子崇敬者の皆様方のなおいっそうの御支援、ご協力を賜わりますよう御願い申し上げます。

本年四月三十日今生陛下が御譲位あそばされ翌五月一日には皇太子殿下が第百二十六代天皇として御位におつきになられます。平成と言う一つの時代が終わろうとしています。

私が生まれ育った昭和、戦争が終わり何の資源も持たない最貧国になった日本が奇跡的な復興を成し遂げ、世界第二の経済大国となり、物があふれ「イケイケ」の時代でした。生活は豊かになったが何かを忘れてきた時代だった気がします、平成に入りバブル崩壊、自然災害、ネット社会の加速、最近ではオレオレ詐欺、児童虐待、アポ電強盗、人としてのあるまじき行為や想像を絶する災害等々多く発生し、人間としての生き方、考え方が問われる時代だった気がします。

新しい元号（令和）には、人を思いやり心穏やかに希望に満ち溢れる時代であってほしいものです。

終りに、万物を生み育て、満ち足らしめる生島足島神社が心安らぐ場所でありつづけるため、重ねて格別の御高配、ご協力を賜りたくお願い申し上げ、益々のご健勝とご多幸をお祈りしご挨拶とさせていただきます。

氏子定期総会

三月二十四日（日）、斎館会議室において午後四時より開催された「下之郷三頭獅子保存会総会」に続き、生島足島神社定期総会が多くの方々が出席される中、開催されました。宮川宮司、松澤繁樹総代長の挨拶で、本年度は「新しい御代を迎える瑞穂の国日本」…それに伴う祭祀等が行われる事、新体制について若年層も対象としたリピーターを増したいと抱負をのべられました。続いて、来賓の歴代総代長依田延嘉前総代長より祝辞をいただき、宮入孝夫自治会長を議長に選出して、左記の議事について審議されました。

一、平成三十年度収支決算について
二、事業計画について
三、平成三十一年度収支予算について
四、境内清掃出役について

十一月二十四日（日）午前六時半と決議されました。質疑応答の後、退任者五名に（依田延嘉総代長・松澤正彦総務部長・桑野晃経理部長・野村功一総代・村山辰夫総代）に、宮司・総代長より永年御奉仕の感謝状と記念品が進呈され、本年度責任役員が紹介され閉会となりました。

生島足島神社定期総会　平成31年3月24日

新体制名簿は六ページに掲載

平成三十一年度 事業計画

総務部

総務部長
永井憲幸（四班）

一、神社境内樹木の状況を点検し、枝木の剪定をなし枝木の落下による事故等を未然に防止するようにする。
二、別所線下之郷駅から神社までの参道にある樹木の手入れをし、参道らしい景観を維持するとともに、幟などを置き神社まで誘導するようにする
三、神社公園の清掃・整備等を実施して、公園らしい景観にする。
四、参拝者には、総代全員が敬意とおもてなしの心を持って接し笑顔で挨拶するようにする。
五、境内駐車場内の事故防止のため、一方通行の徹底履行を促すとともに無断駐車禁止を掲示し徹底するようにする。
六、総代・職員相互の親睦が図られるように研修旅行・親睦会・慰労会等を計画するようにする。

経理部

経理部長
伊藤治明（五班）

一、会計業務
一、現金支払いの現金出納帳を記帳し、手持ちの現金を管理する。
二、日々の収支を日計簿に記帳して月計表等を作成し毎月役員会にて監査を受ける。
三、関係書類を準備し、年2回の会計監査を受ける。
四、一般会計収支決算書、予算書を作成し定期総会にて提案する。
五、総代（婦人部）手当の支給、職員俸給の振り込みを行う。
六、週初め、週末に金融機関へ行き初穂料・賽銭等入金しその他各種振込みを行う。

二、備品（飲食物を含む）の手配
一、祭典及び会合後に直会の有る場合は、飲物・皿盛り等の手配を行う。
二、総代出役などの際は、飲物・弁当の手配を行う。
三、事務備品、作業備品の手配を行う。

三、長野県神社庁、新庁舎氏子会館建設について
一、31年度予算書の負担金を増額して、新庁舎設立負担金に備える。

祭典部

祭典部長
横山正直（十班）

一、祭典参進前の手水の儀、警護、扉、柵、注連縄の開閉他、準備、片付けの手伝い。
二、結婚式の準備、片付け、浦安の舞の練習時の世話役。
三、年末年始の準備、注連縄作り等の作事を早めに行う。
四、名入れだるま、福だるまの目入れ、福升の焼印押し等、事前準備。
五、山榊（そよご）、空木（ウツギ）、ヨシ等の採取、また採取場所の環境が変化しているので対策を考慮する。
六、結界作り用の青竹取り、地主、持ち主に事前にお願いしておく。

神社年間行事予定

月次祭　つきなみさい
（毎月朔日　午前九時）一月は斎行しない

一月

歳旦祭　さいたんさい
（一月一日　午前九時）正月元旦
御門祭　みかどまつり
（一月八日　午前八時）
荒魂社例祭　あらみたましゃれいさい
（一月八日　午前九時）
御筒粥卜（占）神事　おつつがゆうらないしんじ
（一月十四日　夜　御籠祭後引き続き）
御筒粥卜（占）奉告祭及蟇目鳴弦並蛙狩神事　おつつがゆうらないほうこくさいおよびひきめめいげんならびにかわずがりしんじ
（一月十五日　午後一時）

二月

節分追儺祭　せつぶんついなさい
（二月三日　午後二時）
会員年度表彰
鬼やらい豆撒き
（午後三時）
紀元（節）祭並神位祭併祈年祭
きげん（せつ）さいならびにしんいさいあわせてきねんさい
（二月十一日　午前十時）

三月

神社総代就任奉告祭並委嘱書交付式
じんじゃそうだいしゅうにんほうこくさいならびにいしょくしょこうふしき
（午後二時）
秋葉社（講）例祭　あきばしゃ（こう）れいさい
（三月二十六日　午後四時）

四月

「臨時祭」天皇皇后両陛下御結婚満六十年奉祝祭　ほうしゅくさい
（四月十日　午前十時）
御移（遷）神事（諏訪様還座祭）　おうつりしんじ（すわさまかんざさい）
（四月十八日　夕闇）
摂社諏訪神社（下宮）例祭　せっしゃすわじんじゃ（しものみや）れいさい
（四月十九日　午前十時）
春季祭（御本社）　しゅんきさい
（四月十九日　右例祭に引き続き）
昭和祭引き続き「臨時祭」天皇陛下御譲位御安泰祈願祭
（四月二十九日　午前九時）

五月

山宮社例祭　やまみやしゃれいさい
（五月十日　午前九時）

六月

御歳代田作り　みとしろたづくり
（六月二十五日　午後四時）

七、各部と協力して作業、準備をスムーズに行う様にする事。
八、祭事について神職と準備について等、打ち合わせをする。
九、年二～三回、注連縄、紙垂を取り替える。
十、新しい部員に早く仕事の内容段取りを覚えてもらう。

管理部

管理部長　木本昭征（一班）

一、境内清掃
宮池、水口、排水溝の管理清掃定期的に行う。第二駐車場の清掃。境内、枯れ木、支障木の除去作業（一部外注あり）。草刈りの業務、境内、参道、御旅所、山宮（各所 年二～三回）。下之郷双葉会の清掃業務あり。境内建造物、屋根の落ち葉などの除去作業。
二、境内整備
宮池西側フェンス通りに牡丹、アジサイの補植をして環境を良くする。子安社周りに草花を移植し環境を良くする。生島公園の管理、榊、八重桜の木、垂れ柳、その他の手入れ。山宮、植林地の手入れ、須川、社有地の手入れ。宮池の水質浄化に伴う水利管理、地区水利委員会打合せ。
三、各部との連絡業務
祭典部　各祭事の準備・要請有り次第対応する。
広報部　各業務の準備・各イベント準備など。
四、年末年始の準備
薪作り　春に準備する。山宮、東山より調達する。お焚き上げ用は年末に東山より調達する。（軽トラ十～十五台）。
ストーブ、灯油の準備、照明設備、駐車場（一部外注）、各駐車場の白線引き、雪つき用具・本殿周りの参拝者の対応の準備など。道路標識の準備点検設置など。
五、資源物の管理
資源物管理は管理部で毎月第三金曜日に当番表により行う。
六、車両の管理
車検、点検（指定販売店）
タイヤ交換（夏、冬履き替え）
七、倉庫、西ハウスの管理
各道具、工具、御柱の道具、神輿、整備・点検　整理整頓、各種、燃料、点検

広報部

広報部長　高梨勝緒（十班）

一、神社境内における事業
季節ごとに神社大型看板を差し替える。（6月七五三・11月初詣・2月常設）
二、神社内での記録写真の撮影と編集整理
三、神社便りの発行
四、神社祭事・イベント時の許可書申請
五、福だるま頒布
六、カレンダー・ポスター作成
テーマを決めて写真データを蓄積し、カレンダーやポスターの作成
七、だるま会計決算
八、広報活動
・生島足島神社のホームページ（HP）が活用できる様に内容検討と提案
・広告代理店などに情報を提供し、知名度と拝観者集客向上に努める。
・広報誌（パンフレットやリーフレット）等継続してデザイン研究する。

御歳代種蒔神事並祇園天王降祭
みとしろたねまきしんじならびにぎおんてんのうおろしのみまつり
（六月三十日　午後五時）
六月の大祓式（夏越の祓）ろくがつのおおはらえしき（なごしのはらえ）
（六月三十日　午後六時半）

七月

祇園祭　ぎおんさい（七月最終日曜日）
子供神輿・大人神輿・浦安の舞
下之郷三頭獅子舞奉納奉告祭しものごうみかしらししまいほうのうほうこくさい（七月最終日曜日午後二時）
獅子舞奉納
御歳代植苗祭（御田植神事）並祇園祭みとしろしょくびょうさい（おたうえしんじ）ならびにぎおんさい
（翌日午後五時）

八月

九月

田面神事　たのもしんじ
（九月一日　午後五時）
八幡社例祭　はちまんしゃれいさい
（九月十五日　午前十時）
例祭（秋季祭）（御本社）れいさい（しゅうきさい）
（九月十九日　午前十時）
神賑祭（歌舞伎舞台）　しんしんさい
（午後一時半）

十月

御歳代稲刈り（抜穂）みとしろいねかり（ぬいぼ）
（十月中か十一月上旬　午後四時）

十一月

神（御）井神事　みいしんじ
（十一月一日　午後四時）
上神（御）井祭・下神（御）井祭
かみみいさい・しもみいさい
御（遷）移神事（諏訪様遷座祭）おうつりしんじ（すわさませんざさい）
（十一月三日　夕闇）
御籠祭　おこもりさい
（十一月三日から四月まで　夕刻）
子安社例祭　こやすしゃれいさい
（十一月四日　午前九時）
新穀感謝祭（新嘗祭）しんこくかんしゃさい（にいなめさい）
（十一月二十三日 午前十時）勤労感謝の日

十二月

天長（節）祭　てんちょう（せつ）さい
（十二月二十三日 午前十時）天皇誕生日
十三社例祭　じゅうさんしゃれいさい
（十二月二十五日　午前十時）
古神札（神符守札）**焼納式**　こしんさつ（しんぷしゅさつ）しょうのうしき（十二月三十一日　午後三時）
十二月の大祓式（師走の祓）　じゅうにがつのおおはらえしき（しわすのはらえ）（十二月三十一日 引き続き）
越年除夜祭　えつねんじょやさい
（十二月三十一日　引き続き）

新任総代・担当紹介（敬称略）

平成三十一年三月三日御本社に於いて、宮川宮司より新総代十一名の「新任総代の委嘱書交付式」がおこなわれ、引続き平成三十一年度「第一回氏子総代会」が開催されました。

昨年度末の退任で空席となった総代長・総務部長・経理部長の三役選出選挙が厳正に行われ、新たに総代長に松澤繁樹氏（六班）、総務部長に永井憲幸氏（四班）、経理部長に伊藤治明氏（五班）が新三役に選出されました。

前任役員の意志を引継ぎ、氏子崇敬者の皆さんのご指導の下、円滑に神社業務が遂行できるよう努めますので、新任総代共々よろしくお願い申し上げます。

5班
伊藤　治明
経理部長

6班
辰野　富夫
総務部

1班
村山　生夫
総務部（継続）

4班
永井　憲幸
総務部長

6班
松澤　繁樹
総代長

4班
斎藤　正彦
祭典部（継続）

3班
伊藤　孝明
祭典部

10班
横山　正直
祭典部長（継続）

9班
曲尾　哲夫
経理部

8班
上野　正人
経理部

8班
滝澤　善昭
管理部（継続）

7班
小林　修三
管理部

2班
村山　光義
管理部

1班
木本　昭征
管理部長（継続）

10班
村山　紀雄
祭典部

9班
宮入　政宏
広報部

5班
依田　一幸
広報部（再任）

10班
高梨　勝緒
広報部長（継続）

10班
島田　信夫
管理部

9班
横関　正幸
管理部（再任）

手水の作法

巫女　樋口真衣

みなさんはいつも参拝の前に手水をされていますか。

手水とは参拝する前に、心と身体の「罪穢れ」を洗い清める禊ぎを簡略化した儀式です。私たちは、日常生活の中で意識せずとも罪穢れは身にまとってしまうものです。罪は嘘をついたり、意地悪をしたりと人為的に発生するもので、穢れは疲労が溜まり元気が無い状態など自然に発生するものです。

神社は清浄であることを大切にしています。穢れを持ち込んではいけませんので手水舎があります。古来より、水は罪穢れを洗い流すものと考えています。時代とともに川の水が汚染され清流や湧き水が確保できなくなったことにより現在は境内に手水舎を設けています。しかし昔は手水舎という場所はなく、境内近くの自然の川や山の湧き水を利用して全身を清めていました。

手水の作法

一、右手で柄杓に水をくみ、左手をすすぎます

二、柄杓を左手に持ちかえ、右手をすすぎます

三、再び柄杓を右手に持ち左手の手のひらに水を受け、口をすすぎます（柄杓には口をつけません）

四、口をすすぎ終わって、もう一度左手をすすぎます

五、柄杓を立て残った水で柄杓の柄を流して元の位置に戻します

手水舎は手を洗い、口をすすいで身を清める場所です。「ちょうずや」または「てみずしゃ」と読みます。

手水舎には「洗心」と彫られていることがあります。

洗心は身体だけではなく心について穢れを洗い流し邪心をなくしなさいということです。

これからは神社を訪れる際には手水で清めて綺麗な状態でお参りをしましょう。

神社のちょうすけくん

巫女　横山実早紀

生島足島神社のマスコット的存在、「ちょうすけ」くんをご存じでしょうか。

ガチョウの男の子で、二十年以上当社にいます。よくアヒルと間違えられたり、たまに「白鳥」なんて言われたりしますが、アヒルより大きく、青い目をしたヨーロッパ系種のガチョウです。

池を泳いでいるだけでなく、陸に上がって境内を散歩したり。神社では日常になっているこの風景ですが、やはり初めて目にする人は、その大きさも相まって驚くようです。

授与所前にあるエサの麩が大好物で、お腹が空くとエサ箱の前で大きな声で鳴いておねだりする事も。エサをあげたり写真を撮ったり。親子連れを中心に、参拝者の皆さんに大人気です。

そんな神社のアイドルちょうすけくん、実はおみくじにもなっているんです。

一昨年のお正月からこっそりデビューした「ちょうすけみくじ」。おみくじ自体がちょうすけの形をしていて、そのまま結べるとっても可愛らしいおみくじです。

たくさんのちょうすけが群れになるおみくじ掛けは、見ればほっこり笑顔になってしまうはず。

そのまま持ち帰ってもよし、結んでいってもよし。個性的な「ちょうすけみくじ」の初穂料は『二羽』二百円。参拝の記念にぜひいかがでしょうか。

ちょうくんの華麗なる一日

朝八時　授与所で朝ごはん。鴨ちゃんたちと池を二周、あちらこちらを見て回り、岸に上がって日向（ひなた）ぼっこ。また池にもどり、一声・二声鳴いて参拝の皆さんのご好意によるおやつタイム。昼に授与所でおなかが膨れたらお昼寝です。鴨ちゃんたちとはぐれたら呼出コールの鳴き声で合流し、おやつタイム、夕食を食べ華麗なる一日は終わります。

おむすび

「おにぎり」・「にぎりめし」のことですが、神様の名前と深くかかわるのが「おむすび」というよび方です。最初にお生まれになった三柱の神様のうちの二柱、「高皇産霊神（タカミムスビノカミ）」「神産巣日神（カミムスビノカミ）」は生成・調和の神様といわれ、霊力がことのほか強い神様です。お米は「いのちの根」ともいわれ、天照大御神様がお与えくださった天上の世界の食べ物です。また、三角の形が多いのは、山にたとえているといわれます。生きていく上で必要な多くのものを育（はぐく）み、山の神が野に降りて田の神となることは広く知られています。「むすび」の神さまの力、お米の力、お山の力をいただき、霊力をもいただいて、心と体の糧（かて）にする。おむすびというよび方には神さまと共に生きてきた日本の心が読み取れます。

御代替わりを記念して「生島むすび（塩おむすび）の頒布

おむすびに、お塩を程よくまぶしたものが「塩おむすび」です。塩はお水などともに、なくてはならないものです。いのちの基（もと）・清めの力がおむすびに加わり、お祓いなどの節目には、またとない食べ物です。御代替わりの年にあたり、皇室縁（こうしつゆかり）の当社では六月三十日に行う「大祓」のあとに、「生島むすび」として塩おむすびを斎館前でお頒（わか）ちします。体の中からもお清めください。

なお、数は十分にご用意しますが、限りがありますのでご了承ください。

多くの氏子崇敬者の皆様にご参加いただきます様にお願い致します。

お宮参り

随時、受付執行中

初宮詣や七五三詣はお子さんの健やかな成長を祈る大切な儀式です。

初宮詣・七五三詣のご祈願は、午前九時から午後四時までです。

・所要時間は約十五分位です。神職がお祓いをして、神様に祝詞を奏上致します。そして、福鈴の振り幣を受け、親御さんやお子さん自身が玉串を捧げご拝礼致します。

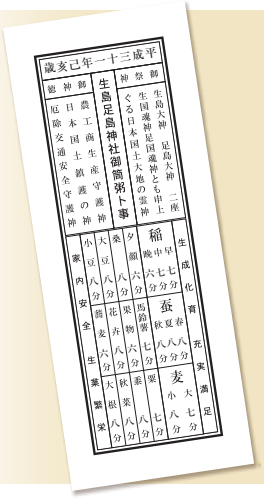
終わりに神社からお札・お守・記念品のおさがりをいただき納めとなります。

・貸衣装、記念撮影は神社写真室「夢うさぎ」をご利用できます。

市内より莉央奈ちゃんの七五三詣に来られた楽しくて、幸せそうな家族です。

生島足島神社御筒粥ト事

早稲（わせ）	七分	馬鈴薯（ばれいしょ）	七分
中稲（なかて）	七分	果物（くだもの）	六分
晩稲（おくて）	六分	花卉（かき）	八分
夕顔（ゆうがお）	六分	蕎麦（そば）	六分
桑（くわ）	八分	大麦（おおむぎ）	七分
大豆（だいず）	八分	小麦（こむぎ）	八分
小豆（あずき）	八分	粟（あわ）	七分
春蚕（はるご）	八分	黍（きび）	八分
夏蚕（なつご）	八分	秋菜（あきな）	八分
秋蚕（あきご）	八分	大根（だいこん）	八分



編集後記

暦の上では春本番！とはいえ、朝晩の冷込みの厳しさが続いている今日この頃、氏子の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、当「神社便り」の継続発行も平成から令和に御代替わりする年に先輩総代のご努力により記念すべき区切りの第五〇号の発刊を迎えました。つきましては、臨時号を夏に発行いたしたく準備を進める予定です。

また、本号記事で紹介しました「生島むすび」は、六月三十日午後六時半より執行される「夏越しの祓」終了後にお頒ちしますのでご家族皆さまでお祓いにお越しください。

最後になりましたが、神社に長年ご尽力をいただきました依田延嘉前総代長・松澤正彦前総務部長・桑野晃前経理部長はじめ、総勢十一名の退任された総代の方々大変ご苦労様でした。

氏子崇敬者の皆さんのご健康をお祈り申し上げます。

〈広報部〉